

北海道179市町村のできる！を実現



# 木村としあき



## 木村としあき政経セミナー 北海道を元気にする処方せんを探る

「北海道を動かす会」主催の「木村としあき政経セミナー『北海道の処方せん』」が14日、札幌市内のホテルで開催され、北海道を元気にする処方せんについて有識者の皆さんから提言などいただきました。



▲コーディネーターの神原教授

冒頭、東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々に黙祷を捧



ら加工、販売までを行っている取り組み

北海道を動かす会  
コーディネイターは  
北海学園大学法学部・  
神原教授が務め、パネ  
リストに東京農業大学  
生物産業学部、渡部俊  
弘教授、社会医療法人  
禎心会の徳田禎久理事  
長、そして地域活性化学  
会・木村としあき理事  
の三氏。



▲左から渡部教授、徳田理事長、木村としあきのパネリスト三氏

渡部教授は地域資源を活かした新たな産業モデルの創出と題して、オーストラリアの国鳥である「エミュー」を網走の活性化につながる新たな地域資源として、飼育から加工、販売までを行っている取り組み

■所得が上がらないと元気がならない

を紹介すると共に、「所得が上がらないと地域は元気がならない。全員野球のように多くの皆さんがかかわることが大切」と強調しました。

■医療のロードマップが必要

また、徳田理事長は「独自で調べた詳細なデータを基に、医師や診療科偏在など、医療格差が広がっている北海道における地域医療の現状を把握し、人口減少や高齢化の問題を考えた上で、地域を守护るには医療・介護を守らなければなりません」と訴えました。

**東北地方太平洋沖地震で亡くなられた皆様に黙祷**

14日の政経セミナーの冒頭、全出席者で黙祷を捧げました。また、会場ではカンパも募りました。

後の課題として、医療の現状を把握し、その上で、どのようなかサポーターが活躍できるかを2、3年をめどとした取り組み、中長期的な取り組みに区分けしたロードマップが必要だと指摘しました。加えて、「道が決めて、医療や施策だからうまく進んでいない」として、「重要なのは現場の情報、事情を的確に把握すること」や「役人が2年間、替わってほしい」とアドバイスしました。

■国と市町村を知っている人は期待できる  
最後にコーディネーターの神原教授は「今後は地域主権の時代。市町村をサポーターとして、道庁の役割」とし、総務省、農水省、小樽市職員、経験のある木村さんに「国のことも知って、市町村のことを知っている人は期待できる」とまとめました。

◆出陣式 23日(水) 18時  
◆第一声 24日(木) 8時30分(開始8時40分) 45分頃  
ホテルニューオータニ札幌(中央区北2西1) 道庁東門前(中央区北3西5)